



ノスリ（成鳥）

ノスリ *Buteo buteo*

分類：タカ目タカ科

分布：ユーラシアの温帯・亜寒帯域とアフリカの一部で繁殖。冬季にはアフリカ・南アジアへ渡る。日本では北海道から四国で繁殖。冬季には全国で見られる。

大きさや特徴：翼は長く幅が広く、尾は短めで。トビより少し小さくずんぐりしたタカ。体の上面は暗褐色。暗褐色の過眼線と顎線が目立つ。胸から腹までクリーム白色で暗褐色の縦斑がある。

調査地域での生態的地位：上位性（陸域）

食性：ネズミ等の小型哺乳類、鳥類、ヘビ類、トカゲ類、バッタ類を捕食。

活動場所：丘陵地、低山の林、農耕地、草原に生息。

繁殖場所：大木の樹上や断崖の上に巣を造る。

重要な種指定：なし



静止探餌する個体



カマキリを食べる個体

令和3年調査では以下のとおりの生息数が確認されました。

- ・ノスリは冬鳥として確認されました。
- ・全島に広く分布し、樹林地や草地を利用していました。
- ・餌動物：ハンティング行動や食痕から、カマキリ、メジロ、ヒヨドリを確認しました。

【食物連鎖例】



図-6. 15. 4(2) 陸域生態系注目種の一般生態（上位性 ノスリ）



シカの群れ

シカ *Cervus nippon*

分類: 偶蹄目シカ科

分布: ベトナムから極東アジアにかけて広く分布。日本産亜種は北海道、本州、四国、九州、淡路島、小豆島を含むいくつかの瀬戸内諸島、五島列島、馬毛島、屋久島、種子島、対馬、慶良間列島等に分布。

調査地域での生態的地位: 典型性

食性: イネ科草本、木の葉、堅果、ササ類等を採食。

活動場所: 常緑広葉樹林、落葉広葉樹林、寒帯草原等多様。

繁殖場所: 活動場所と同様。

重要な種指定: 馬毛島のニホンジカ (*Cervus nippon*) は「レッドデータブック 2014 1 哺乳類(平成 26 年 9 月、環境省)」で「絶滅のおそれのある地域個体群」として掲載。



シカの雄



シカの雌



シカの親子

- ・シカは、シバ群落やススキ群落等の二次草原で多く観察されました。
- ・定点観察及び踏査による直接観察、REST モデルによる密度推定の結果、島内には 700~1,000 個体程度のシカが生息していると考えられました。
- ・餌として主にシバ等のイネ科草本、その他にも常緑の葉等を利用していると考えられました。
- ・6 箇所採取したシカの糞の DNA を分析した結果、「馬毛島、種子島、阿久根大島」、「屋久島」、「朝倉市、薩摩川内市」の 3 集団に帰属することがわかりました。

【シカが植生群落を変化させることによる間接効果】

シカによる採食圧は植生群落を変化させるほどの影響があることが知られています。また、採食圧による植生群落の変化は生息する生物群集に間接的な影響を及ぼします。

シカが低密度に生息



植物群落を利用する様々な生き物が生息

シカが高密度に生息



シカが増加すると採食圧により植物群落が変化し、植物群落を利用する生き物の生息も変化します。

図-6. 15. 4(3) 陸域生態系注目種の一般生態 (典型性 シカ)



ホオジロ（成鳥雄）

ホオジロ *Emberiza cioides*

分類: スズメ目ホオジロ科

分布: シベリア南部からアムール、ウスリー地域やアルタイ、モンゴル、中国、朝鮮半島に分布し、日本では種子島、屋久島以北に分布する。

大きさや特徴: スズメより少し大きく、やや尾羽が長い。頭部を除きスズメに似た茶褐色で背には黒い縦斑がある。雄の頭部は白黒の縞模様で、雌の頭部は淡褐色と黒褐色の縞模様で雄よりコントラストが弱い。

調査地域での生態的地位: 典型性

食性: 植物の種子、落穂、昆虫等を食べる。

活動場所: 全国の山地、平野の比較的明るい林縁、低木林等で繁殖する。

営巣場所: 低木や草本の茂みの中に枯草等を集めて椀型の巣をつくる。

重要な種指定: なし



さえずる成鳥雄



バッタ類をくわえる成鳥雄

令和3年調査では以下のとおりの生息数が確認されました。

- ・繁殖期: 4月に31個体、5月に68個のさえずる雄が体確認されました。
- ・非繁殖期: 繁殖期に比べて個体数は減少しました。
- ・繁殖の有無: 繁殖中の巣は確認されませんでした。餌をくわえて運ぶ成鳥や巣立ち後と思われる幼鳥を確認したことから島内で繁殖していると考えられます。

【食物連鎖例】

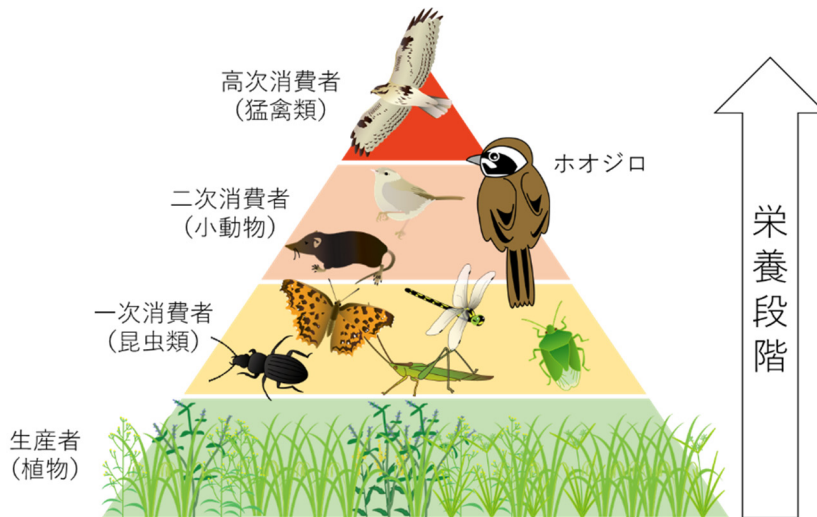


図-6. 15. 4(4) 陸域生態系注目種の一般生態 (ホオジロ)

現地調査結果

a) 上位性 ミサゴ

(7) 行動範囲調査

現地調査の結果を表-6. 15. 6 及び図-6. 15. 5 に示しました。

ミサゴは合計 203 回確認され、その多くは馬毛島周囲の海岸部で確認されました。ミサゴは周年馬毛島に生息（ノスリ調査や鳥類相調査での調査時期を含む）しており、島の南西部の海岸と北西部の海岸の計 2 箇所では営巣（2 箇所共に繁殖成功）を確認しました。特に巣のある島の南西部と北西部の海岸付近では集中していましたが、内陸部を横断する飛翔や島中央部の岳之腰付近での旋回上昇も観察されました。

採餌・探餌等に関連する行動は、島の海岸部で多く確認された他、内陸の池でも確認されました。海岸部の岩礁上や灯台に止まって下方（海面方向）を見たり、海上を旋回・ホバリングしながら探餌した後、急に海面に急降下し採餌したりする様子も観察されました。島の海岸部を主な採餌場として利用していると考えられます。

表-6. 15. 6 ミサゴ確認状況

調査月	年齢	性別	特筆すべき行動				
			探餌・採餌	攻撃	(対象)	被攻撃	(対象)
3月	成鳥19 不明8	雄 8 雌 8 不明11	3	1	(ミサゴ)	1	(ミサゴ)
4月	成鳥8 巣内雛3 不明5	雄5 雌2 不明9	5				
5月	成鳥15 幼鳥4 巣内雛3 不明15	雄7 雌9 不明21	8	1	(トビ)		
6月	成鳥31 幼鳥12 不明17	雄15 雌10 不明35	19			1	(トビ)
7月	成鳥34 幼鳥7 不明22	雄19 雌11 不明33	17			1	(トビ)
合計	成鳥107 幼鳥23 巣内雛6 不明67	雄54 雌40 不明109	52	2	-	3	-